

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 61-126851

(43)Date of publication of application : 14.06.1986

(51)Int.Cl.

H04M 1/64

(21)Application number : 59-248436

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD

(22)Date of filing : 24.11.1984

(72)Inventor : KUNO TAKESHI
TAKEHARA KIYOTAKA

(54) AUTOMATIC ANSWERING TELEPHONE SET

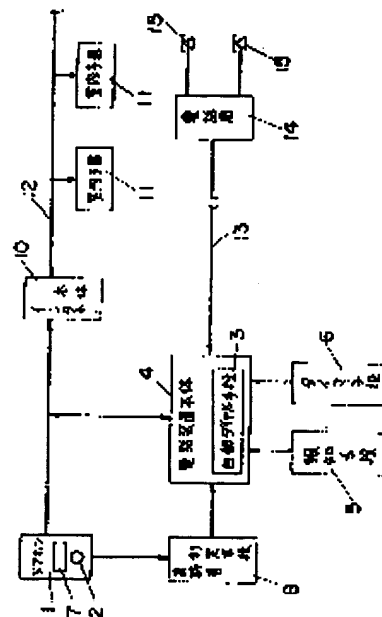
(57)Abstract:

PURPOSE: To enable a voice communication with a visitor from a place off the house through the telephone and the interphone at the door to know the visitors request by devising the telephone system body which includes an automatic dialing mean to automatically dial the preset number when the call button of the interphone at the door is depressed, an annunciating means that annunciates through the interphone that a call is being made, and a mean of timer to enable a certain period of speaking to each other.

CONSTITUTION: When the visitor depresses the call button 2 of the door interphone 1, the annunciating means 6 operates and announces, 'Nobody home how.

Please set the code number then it will be connected to

the phone to be answered.' Then, if the visitor inputs the necessary code number by the keyboard 7, the automatic dialing mean 3 instantaneously operates and dials the preset phone number (the housemaster-reaching telephone 15). When the telephone system body 4 is connected to the preset telephone system 15, the timer mean 6 operates to provide the speaking between the door interphone 1 and the telephone 15 for a certain period of time.



⑫ 公開特許公報(A)

昭61-126851

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)6月14日

H 04 M 1/64

Z-7608-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 留守番電話装置

⑯ 特 願 昭59-248436

⑰ 出 願 昭59(1984)11月24日

⑱ 発 明 者 久 野 毅 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内
⑱ 発 明 者 竹 原 清 隆 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内
⑲ 出 願 人 松下電工株式会社 門真市大字門真1048番地
⑳ 代 理 人 弁理士 石田 長七

明 細 書

1. 発明の名称

留守番電話装置

2. 特許請求の範囲

(1) ドアホンの呼出し鉤が押されたときに所定の相手先に自動ダイヤルする自動呼出手段を有する電話装置本体と、呼出し中である旨をドアホンを通じて報知する報知手段と、一定時間通話可能とするタイマ手段とより成る留守番電話装置。

3. 発明の詳細な説明

〔技術分野〕

本発明は、留守中であつても来訪者と対応できる留守番電話装置に関するものである。

〔背景技術〕

従来、留守中にかかつてきた電話を所定の相手先に転送するようにした留守番電話装置があつたが、来訪した人と対応できるようにしたものがなく、不都合をきたす場合があつた。

〔発明の目的〕

本発明は上記の点に鑑みて為されたものであり、その目的とするところは、留守中であつても来訪者と外出先からドアホンおよび電話を通して対応でき、来訪者の用件を適確に把握することができる留守番電話装置を提供することにある。

〔発明の開示〕

〔実施例〕

第1図および第2図は本発明一実施例を示すもので、ドアホン(1)の呼出し鉤(2)が押されたときに所定の相手先に自動ダイヤルする自動ダイヤル手段(3)を有する電話装置本体(4)と、呼出し中である旨ドアホン(1)を介して報知する音声合成回路よりなる報知手段(6)と、一定時間通話可能とするタイマ手段(8)とで構成されており、実施例にあつては、キーボード(7)を介して入力される暗証番号が予め設定された番号と一致したときに自動ダイヤル手段(3)を動作させる来訪者判定手段(5)が設けられている。なお、この来訪者判定手段(5)は暗証番号によつて玄関の解錠を行なう電子ロック手段(図示せず)の判定手段を共用しており、当然のこと

ながら、来訪者用暗証番号と、解錠用暗証番号とは異なつた番号に設定される。図中、インターホン本体(1)は玄関に配設されたドアホン(1)および室内子器(11)との間で信号線(12)を介してインターホン通話を行なうものである。また、電話線(13)は電話局(14)を介して他の電話装置(15)に接続される一般の加入電話である。

以下、実施例の動作について具体的に説明する。いま、来訪者がドアホン(1)の呼出し釦(2)を押すと、報知手段(6)が動作して「只今留守です。外出先に電話を接続しますので暗証番号をどうぞ」とアナウンスする。そこで、来訪者が所定の暗証番号をキーボード(7)を用いて入力すると、来訪者判定手段(8)にて予め設定されている暗証番号かどうかチェックされ、一致番号が得られたときすなわち対応すべき来訪者であると判定されたとき、直ちに自動ダイヤル手段(3)が動作して所定の相手先(外出先の電話装置(15))の電話番号がダイヤリングされる。電話装置本体(4)が相手先の電話装置(15)と接続されると、タイマ手段(5)が動作してドア

ホン(1)と相手先の電話装置(15)との間で一定時間だけ通話が可能となる。但し、通話可能時間が終了する前に終話予告音が報知手段(6)からドアホン(1)を通して発せられるようになっており、通話を継続したい場合には呼出し釦(2)を再度押すことによつて新たに一定時間だけ通話が延長できるようになっている。この終話予告音は相手先の電話装置(15)を介しても発せられるようになっており、この終話予告音を認識したときに、来訪者に通話延長時の操作方法を伝達すれば良い。

なお、実施例にあつては特定の来訪者に対してのみ対応するために、来訪者判定手段(8)を設けているが、全ての来訪者に対応する場合には、来訪者判定手段(8)の動作を停止し、ドアホン(1)の呼出し釦(2)が押されたときに、直ちに自動ダイヤル手段(3)を動作させるとともに、報知手段(6)を動作させ、「只今外出中です。外出先に電話を接続しますので、しばらくお待ち下さい。」とアナウンスすれば良い。

〔発明の効果〕

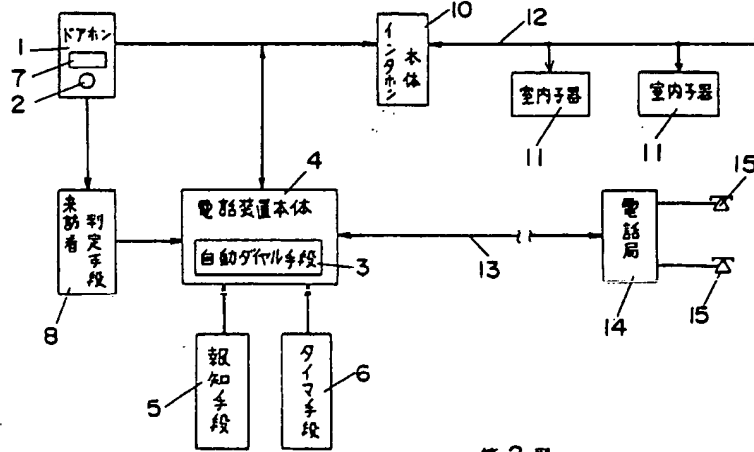
本発明は上述のように、ドアホンの呼出し釦が押されたときに所定の相手先に自動ダイヤルする自動ダイヤル手段を有する電話装置本体と、呼出し中である旨をドアホンを通じて報知する報知手段と、一定時間通話可能にするタイマ手段とで構成されているので、留守中であつても来訪者と外出先からドアホンおよび電話を通して対応でき、来訪者の用件を適確に把握することができるという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明一実施例のブロック回路図、第2図は同上の要部斜視図である。

(1)はドアホン、(2)は呼出し釦、(3)は自動ダイヤル手段、(4)は電話装置本体、(5)は報知手段、(6)はタイマ手段である。

第1図



第2図

